

11. 外国人のオーバーツーリズムについて ひばりが丘高校

現在、私達の高校のある富士吉田市では、多くの観光客、特に外国人観光客でにぎわっています。それに伴い、幾つかの問題点が出てきています。道路混雑や駐車場の問題、ごみのポイ捨てや、道路に出たの写真撮影、電車内でのマナーの悪さなどたくさんあります。文化など違いもあると思いますが、多くの観光客が集中したための集団心理もあると思います。一方、多くの観光客が訪れることはその地域の活性化を考えればとても魅力的なことです。問題点を改善し、多くの観光客も住民も楽しんでいけることが重要に思います。そこで提言があります。山梨県の有名な観光地をつなぐ道路の充実や交通網の充実を図ることです。そのことで、観光客がスムーズに移動できるようになれば一つの観光地にとどまるのではなく、分散化を図ることができます。観光客で活気のある山梨県の実現を望みます。



12. フルーツ王国やまなしを支える農地の整備について 帝京第三高校

私は、総合的な探究の時間において、「北杜市の水の新たな利用」について考える機会がありました。その際、私の班は、パクチーやルッコラ、ほうれん草の農場を見学しました。

そこでは北杜のきれいな水を山から直接引いて育てていました。管理者の方によると「きれいな水を使うことで、生でも食べやすく、香りが強すぎない野菜ができる。」とおっしゃっていました。山梨県だからこそ地形を利用した農地利用であると実感することができました。

さらに水の影響は味だけではありません。施設に保存する苗を健康に保つための調整にも使われていました。こうした水の利用は、果物の農場にも積極的に使うことが大事だと考え、より発展に繋がるのではないかと感じました。山に囲まれている山梨県だからこそ、自然豊かな山梨県だからこそ、果物に適した農地に自然の水を繋げていく改革がより必要であると考えます。



13. 私たちが地域を盛り上げるためにできること
～「食と農」を生かした地域ブランドについて～
北杜高校

北杜高校では、平成30年度より北杜市と連携し「食と農」を活かした地域ブランド「食杜北杜」(しょくとほくと)を開発してきました。これは北杜市内の事業者に協力を仰ぎ、市内特産品を使用した商品の開発と販売を行うことで、地域の魅力を発信するとともに、「地域の稼ぐ力」を高める事を目的としています。SDGs の取組も兼ねており、私たち高校生の自由な発想と、地元の素材を知り尽くしたプロの技術とのコラボレーションにより、7年間で95の魅力的な商品を生み出してきました。今後は、山梨県とも連携し、県の持つ物的資源や情報発信など「魅力的なツール」を活用させていただくことで、取組を広げ、深めていきたいと考えています。これにより、地域の活性化と私たち若者が「地域」に誇りを持ち、将来の担い手として育っていくことを目指します。本取組のさらなる発展のため、県のご協力をいただきたいと思います。

